

【頭に浮かんだことを可視化してから解答を書く方法】

「1分で理解できる解答の書き方」で解答を書くことが前提の内容です。

1. 解答を書くときにやってはいけないこと

「解答を書くときにやってはいけないこと」とは、「頭に浮かんだことをそのまま解答として書くこと」です。このような書き方をすると、解答を書いている途中で「アッ・・・この内容ではないな。書き直した」というミス犯す可能性があります。建設部門を受験したとき、私の前列の斜め右前にいた受験生が一度書いた解答を消して解答を書き直していました。広範囲に消していたように記憶しています。

消す範囲にも関係しますが、一度書いた解答を消し書き直すと時間のロスになるとともに気持ちも乱れ、また、焦りも出ます。書き直しは不合格の原因になります。

2. 頭に浮かんだことを可視化してから書く

2.1 ミスの防止方法

一度書いた解答を消して解答を書き直すというミスの防止方法は、頭に浮かんだこと（解答として書こうと考えていること）を可視化してから答案用紙に書くことです。この場合の可視化とは、頭の中にあることを一度書き出しそれを目で確認することです。このように、頭の中にあることを可視化してから解答を書くことで、一度書いた解答を消して解答を書き直すというミスの発生を防ぐことができます。

2.2 具体的な方法

具体的には、解答の要点と要点の説明を問題用紙の空スペースに書き出し、その内容を目で確認してからこれらを解答として（文や文章として）として書くことです。例えば、「課題として建設技術者の不足について書こう」と考えたら、この課題の要点と要点の説明を問題用紙の空スペースに書き出しこれらを目で確認してから解答として（文や文章として）答案用紙に書き出すことです。

書き出し方に決まりはありません。解答として書こうと考えていることに関するキーワードや短い文などで書き出します。書き出した内容に基づき解答として（文や文章として）書くことができるようなことを書き出します。

3. 頭に浮かんだことを可視化するためのトレーニング方法

3.1 トレーニング方法とは

頭に浮かんだことを可視化するためのトレーニング方法とは、「ノートを使って勉強すること」です。ノートを使って勉強するとは、「学んだことの要点や要約を自分の言葉でノートに手で書くこと」^{注1)}です。また、学んだことの要点や要約が頭の中で整理できたらこれらをすぐに走り書き程度でノートに書き出します^{注2)}。頭の中で整理したことをすぐに書き出すことに慣れてくると、試験のとき、頭に浮かんだことの可視化が確実にできます。

3.2 日常業務の中でもトレーニングができる

頭に浮かんだことを可視化するためのトレーニングは日常業務の中でもできます。技術文書を書くとき、例えば、会議や打ち合わせの資料あるいは業務報告書などを書くとき、書こうと考えていることを可視化することでこのトレーニングができます。ただし、書こうと考えていることを常に可視化していると仕事が停滞するので、例えば、頭の中を整理してから書いたほうがよい場合などで、書こうと考えていることを書き出します。日常業務の場合には、ノートやコピー用紙などに書こうと考えていることを走り書き程度で書きます。

受験勉強と日常業務の中でトレーニングをすることで頭に浮かんだことを可視化することに慣れます。

注1)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「続続・『ノートを使って勉強する』という受験勉強方法について」の資料を参照のこと

注2)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「『学んだことを整理して文で書く』という受験勉強方法について」の資料を参照のこと

以 上